

区分名： 看護実践を支える科目
科目名： 母性看護学Ⅰ
(英語名称： Maternity Nursing Ⅰ)

【担当教員】 山口 咲奈枝、石井 佳世子、大内 美奈、外部講師

【開講年次】 2年次 【学期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単位数】 2単位 【時間数】 30時間

【概要】

母性看護の基盤となる概念やリプロダクティブヘルス／ライツの理念を踏まえ、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷やそれを支える関係法規を学習する。また、ライフステージ各期の女性の健康課題を通して、母性看護の役割と機能を学習する。

妊娠期・分娩期にある対象の心身の変化および胎児期の成長・発達を理解し、妊婦や家族への看護援助の実際について学習する。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

1. 母性看護の概念、母子保健統計の動向、母子保健に関する法律や制度を説明できる。
2. リプロダクティブヘルスケアを説明できる。
3. ライフステージ各期の女性の健康課題とそれに対する看護を説明できる。
4. 妊娠経過に応じた対象の身体的、心理・社会的変化を説明できる。
5. 胎児の生理的变化、成長・発達を説明できる。
6. 分娩の機序ならびに分娩経過に応じた母体の心身の変化および分娩進行が胎児に及ぼす影響を説明できる。
7. 妊娠期・分娩期に必要な看護援助の方法を説明できる。
8. 妊娠期・分娩期の異常について説明できる。

【テキスト】

森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学①母性看護学概論，医学書院
森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学②母性看護学各論，医学書院

【参考書】

太田操編著：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第4版，医歯薬出版，2024.

【成績評価方法】

全講義数のうち3分の2以上出席した学生を対象に筆記試験を行う。

【その他（メッセージ等）】

「生」、「性」、生命の尊重を考えながら学習していきましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	母性看護の基盤となる概念	母性とは、母子関係と家族発達、母性看護のあり方
第2～3回	母性看護の対象を取り巻く環境や社会の変遷	母子保健統計、関係法規、母性看護にかかわる施策
第4～6回	女性生殖器形態機能	性分化、性の多様性、生殖器の形態機能、性周期とホルモン動態
第7～10回	リプロダクティブヘルスケア	避妊、人工妊娠中絶、不妊治療、性感染症、出生前診断
第11～12回	ライフサイクル	ライフステージ各期の女性の健康課題と看護
第13～18回	マタニティサイクル： 妊娠期・分娩期	妊娠期・胎児期の看護
第19～24回		分娩期の看護
第25～27回		妊娠期・分娩期の異常
第28～30回		妊娠期・分娩期の看護

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム		科目達成レベル	
1. プロフェSSIONAL			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎ 看護実践の場で看護職者と

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		しての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示

		② 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	せることが単位認定の要件である
--	--	---------------------------------------	-----------------